



中富記念くすり博物館

当館は「くすりの文化遺産を通して、くすり与健康について考える生涯学習の場」を提供することを目的に、当社創業145周年の記念事業として1995年(平成7年)に設立されました。

健康、いのちを見つめる上で欠くことのできないくすりの文化遺産を11万点ほど保護・保存し、その中から多数の資料を公開しています。

VOICE



社会のために

山川(館長)

中富記念くすり博物館は、郷土のくすり産業文化である「田代売薬」の保存管理、伝承を核とし、故郷の文化に誇りをという趣旨で設

立されました。

この考えは、企業活動と共に社会に貢献するという企業理念に基づくもので、『企業の社会的責任』の一つといえます。「くすり」、そして、「いのちと健康」を考え、啓蒙する総合施設としての活動を通じ、社会に必要とされる存在であり続けたいと思います。

建物はイタリアの彫刻家チェッコ・ボナノッテ氏による設計で、地上2階、地下1階の地上部の大半を展示室として活用しています。常設と企画展示に分かれ、常設展示の数は約800点。1階は、くすり療法の種類やくすりの形などといった基礎知識を学べる展示や、世界のくすりに関するものを集めています。2階は、珍しい生薬、江戸末期のくすり屋の再現と当時の看板、そして、「田代売薬」に関する多くのパネルや民俗資料を集め、くすりの歴史を学ぶことができます。

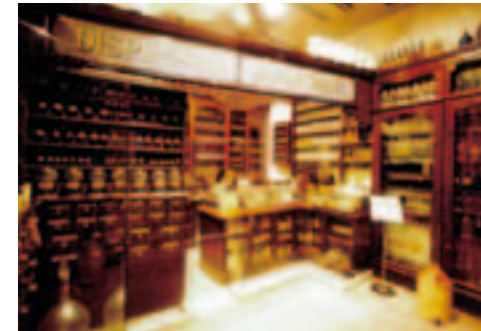
また、敷地内には薬用植物園も併設し、通年、350種余りの薬用植物が観賞できます。

常設展示

1階 古いイギリスの薬局の移設展示

19世紀末(約100年前)のイギリス・ロンドン郊外に建てられた薬局の店内をそのまま移設、展示しています。店内には、青や茶色のくすり瓶がところ狭しと並んでいます。薬剤師は、来店したお客さまの症状に合わせて、くすりを調合していました。店内に足を踏み入れれば、そこは100年前のイギリスの薬局。タイムスリッ

プしたような感覚を味わうことができます。



アルバン アトキン薬局(移設展示)

資料の保管、研究と学習

2階 日本の薬種屋の再現展示

2階には、日本の古い薬種屋の再現展示があります。店内の百味筆筒*より、お客さまの症状に合わせて生薬を取り出し、くすりが処方されていました。

また、豪華な金箔や繊細な彫刻が施された置看板*や掛け看板からは、くすりを作った者たちが商品へ込めた意気込み、そして、看板職人たちの魂を感じることができます。帳場に座っている番頭の人形に、「いらっしゃい、と今にも声をかけられそうな、そんな錯覚を起こす趣です。

*百味筆筒…小さな引き出しに、百種ほどの生薬を小分けしている筆筒

*置看板…床置きで設置する衝立型の看板



薬種屋(再現展示)

五感で学ぶ薬用植物園

四季の薬草が楽しめる「薬木薬草園」

中富記念くすり博物館の敷地内には、見て・触れて・嗅いで、時には味わって、四季の空気を楽しみながら散歩できる2700㎡ほどの薬木薬草園があります。そ

れぞれの植物には、解説プレートも付いており、散策しながら薬用植物を学べるようになっています。森の小道を歩いているような心地よい造りで、ベビーカーや車イスでも安心して入園できるように歩道はスロープになっています。350種もの植物の知識を学ぶことのできる「薬用植物園のある博物館」として、多くの方に親しまれ、「健康を保つための知恵」として、薬草を知りたいという方が年々増えています。



身近な薬草を学ぶ中学生たち

社会・人とのつながり

企画展と出張講座「夏休み体験教室」 「手作りおとそ教室」

年間を通して、様々な企画・行事を開催しています。常設展示では見ることのできないものを公開する「企画展」の開催を年に2回、『夏休み体験教室』や『手作りおとそ教室』など、季節に合わせた行事を年に4回ほど実施しています。20名以上のまとまった人数での要望があれば、随時、ハーブや薬草を用いて石鹸やお香を手作りする教室を開催しています。来館者の方が一歩、足を踏み入れた時から始まる「おもてなし」を心がけ、全ての活動において「お客さまの気持ちに応じたコミュニケーション」を大切にしています。



夏休み体験教育